

DigiNote Proで描く
イラスト・描画講座
—Illustration and drawing in DigiNote Pro—



イラスト・描画講座 INDEX

- | | | |
|----|---------------------------------------|-----|
| 1. | はじめに | P1 |
| | 準備しましょう | P1 |
| | 「eDraw」のインストールをしましょう | P2 |
| 2. | DigiNote Proの基本操作 | P3 |
| | ポインタの動かし方 | P3 |
| | DigiNote Proに慣れよう! | P4 |
| 3. | 「eDraw」の起動と画面構成 | P5 |
| | 線描画を試してみましょう | P7 |
| | 色塗りを試してみましょう | P9 |
| | 保存しましょう | P11 |
| 4. | 絵を描く基本と手順 | P12 |
| | 輪郭を下書き、彩色、縁取りしましょう | P13 |
| | メッセージを入れましょう | P16 |
| | 雅印を入れましょう | P17 |
| 5. | 色遣い・花の絵を描きましょう | P18 |
| 6. | 彩字を描いてみましょう | P20 |
| 7. | ご挨拶(暑中お見舞い・年賀状) | P21 |
| | 文字のバランス・賀詞を描こう | P22 |
| 8. | 遠近法・風景を描こう | P23 |
| 9. | 「DigiNote Pro」「eDraw」の
キャンパス・特性と活用 | P25 |

※このテキストはeDrawバージョン1.2.1で作成しております。
アプリは随時更新されていきますので、表示が若干異なる場合もございます。
尚、テキストの操作内容は、iPhone・iPadにて案内しております。Androidスマートフォン
で操作される場合においては画面に表示される内容に多少相違がありますことご了承ください。

=====本教材における権利についてのご注意=====

timaが提供する本教材は、timaあるいは、timaへの供給者が著作権又は、使用権を所有して
おります。お客様は無断で、いかなる形態においてもその全部もしくは一部を複製、
又は、第三者に対して提供もしくは使用の許諾、その他の処分をすることはできません。

=====

1.はじめに

- タブレットで絵を描くメリットは、数多くあります。
 - 手が汚れない。
 - 片づけがいらぬい。
 - 間違っても、すぐに消せる・戻せる。
 - 絵具や画用紙を用意することがない。
 - 持ち運びも楽ちん。
 - スマートフォンやタブレット等に保存が出来る。等々数えきれません。

準備しましょう

- DigiNote Proのタブレットとペンは、予め充電しておきましょう。
 - 付属のUSBケーブルをパソコンに接続する等して充電しましょう。



・タッチペンを充電時には、ペン先近くのランプが赤く点灯します。

・DigiNote Proを充電時には、画面左上のランプが赤く点灯します。



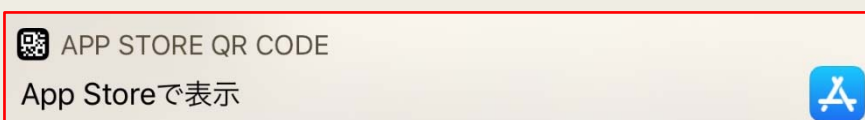
「eDraw」のインストールをしましょう

- 「eDraw」のインストールは、下記の手順で行います。

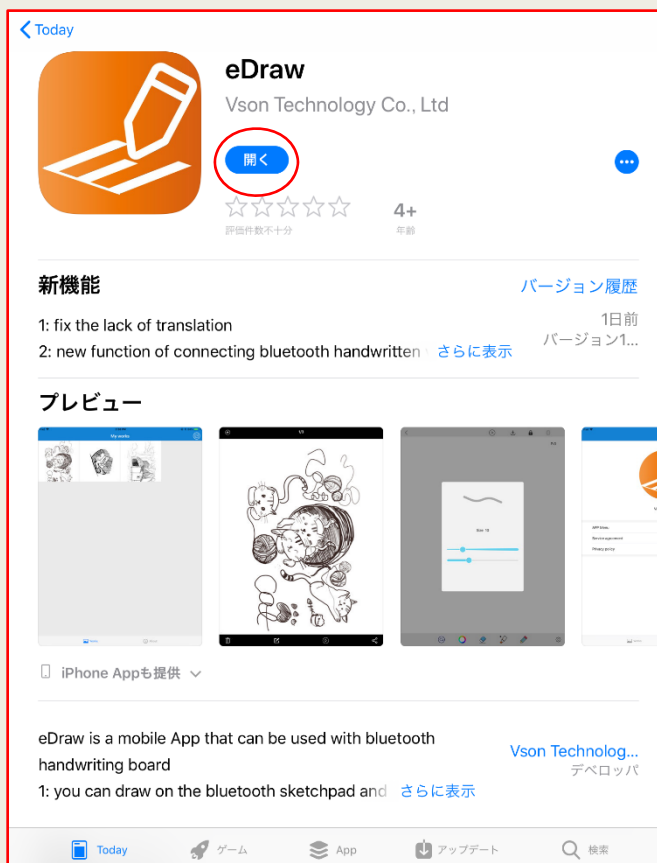
①スマートフォン・iPhone・iPad等の「APP Store」からダウンロードすることも可能ですが、下記のQRコードをコードリーダーアプリ等を使用してインストールしましょう。



②iPhoneやiPad等の場合、画面に下記の内容が表示されたらタップしましょう。



③画面が切り替わるので下記の「入手」をタップしましょう。インストールが完了したら「開く」をタップしましょう。



2.DigiNote Proの基本操作

- DigiNote Proは、「電子の板(=タブレット)」と「専用の電子ペン」からなるスマートフォンやiPhone、iPad用の入力装置です。画面に対応する板の上で、ペンを使ってポインタの位置を指定するため、お絵描き等の細かい操作に向いています。

タブレットであるDigiNote Proなら日常の「紙」と「鉛筆」で絵や文字を書くのと同じように文具感覚で使うことができます。

また、対応アプリケーションソフトと組み合わせると、筆圧に応じて線の太さや塗りの濃淡が変化しますので自然なタッチで絵を描くことも出来ます。

- ペンの持ち方
鉛筆やペンの持ち方に癖があるように、タブレットのペンを持つときも持ちやすい自然な持ち方で描きましょう。

またペンタブレットは筆圧を感知しますので、力を入れたり抜いたり自由に調整できる持ち方をしましょう。線の太さを自在に操れるようになります。



ただし、タブレットのペンにはサイドスイッチがありますので、絵を描くときにはこの部分に気をつけましょう。サイドスイッチは、使う時だけ人差し指で押すようにしましょう。

ポインタの動かし方

タブレットの操作面とモニター全体は対応しています。つまり、ペン先を操作面の左下に持ってくるとペンのポインタ[+マーク]もモニターの左下に移動し、ペン先を右上に持ってくるとペンのポインタ[+マーク]もモニターの右上に移動します。



ここが対応している

現在の位置から引きずりながらポインタを動かすマウス等とは異なる操作方法です。

DigiNote Proに慣れよう!

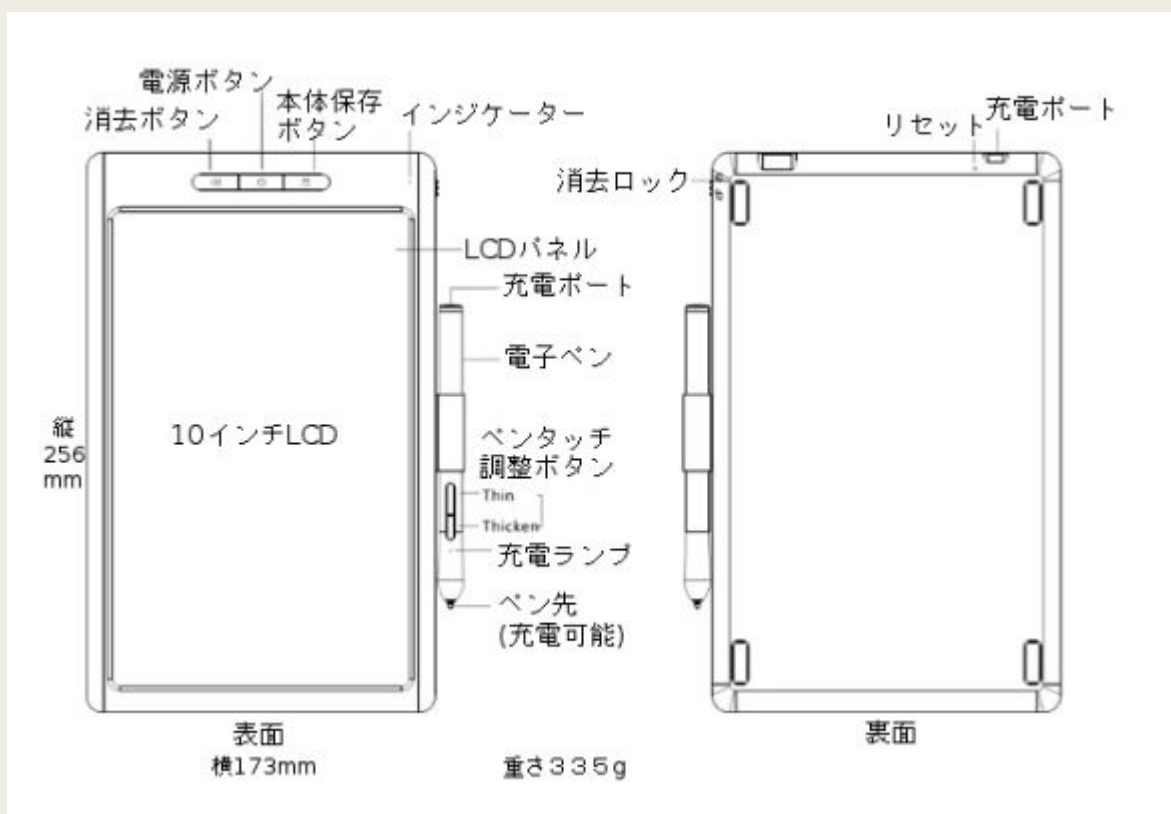
■ サイドスイッチ

ペンの側面には、サイドスイッチがついています。

(①と②にそれぞれスイッチがあります。)

タブレットの操作面上で”ペン先を少し浮かしたまま”
スイッチを押して利用します。

- サイドスイッチは、親指や人差し指で押してみて、自分に合った使い方をみましょう。
- ペンで絵を描いているときには、サイドスイッチに指が当たらないように注意しましょう。

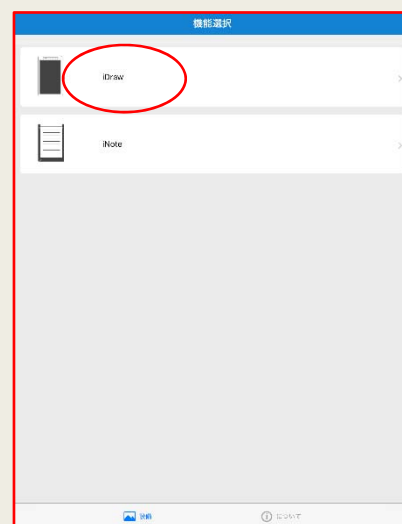


3. 「eDraw」の起動と画面構成

■ 「eDraw」を起動しましょう。
※以下説明は、「iPhone・iPad」を例としています。



①画面上にある「eDraw」アイコンをタップしましょう。



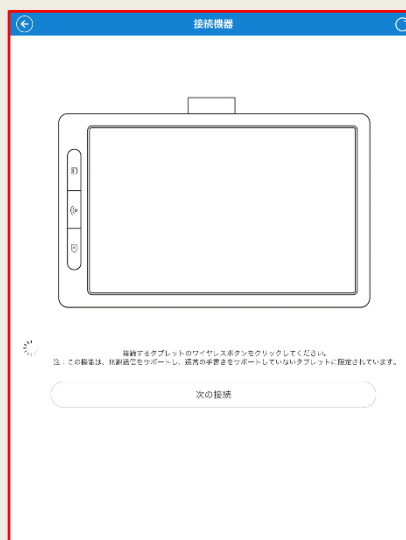
②アイコンをタップすると右のような「機能選択」画面が表示されます。

③「iDraw」をタップしましょう。

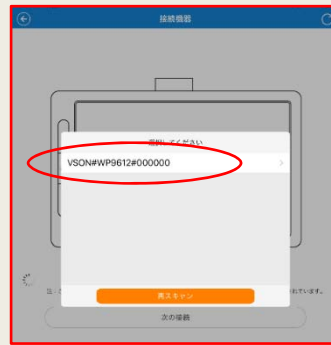
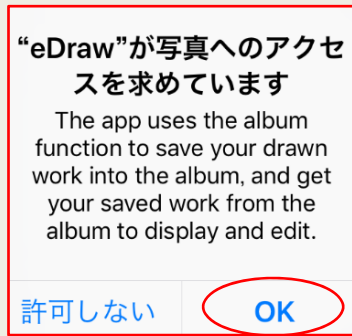


④「私の作品」画面に切り替わったら画面右上の「+」マークをタップし「タブレット図面」をタップしましょう。

⑤右画面に切り替わり「スキャニング装置」から「デバイスへの接続成功しました」と表示されます。



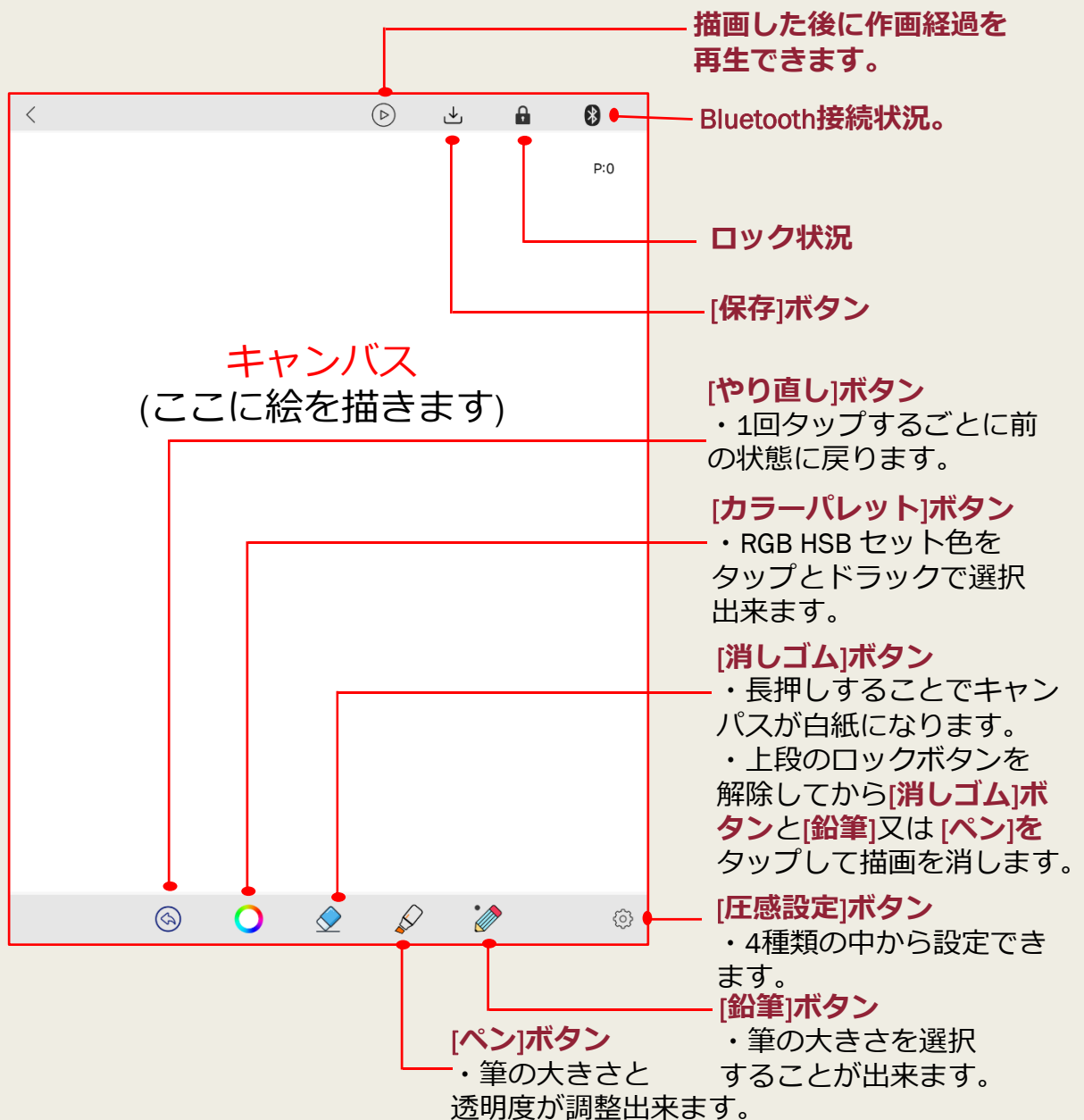
■ 下記の表示が出た際には



※「“eDraw”が写真へのアクセスを求めています」の表示が出た場合「OK」をタップしましょう。

※選択してくださいと表示が出た場合、タブレット側の名前が表示されるのでタップしましょう。

■ 「eDraw」のタブレット図面の画面構成



線描画をしてみましょう

- 「線描画」の描き方
はじめに、基本となる線の描き方を練習しましょう。

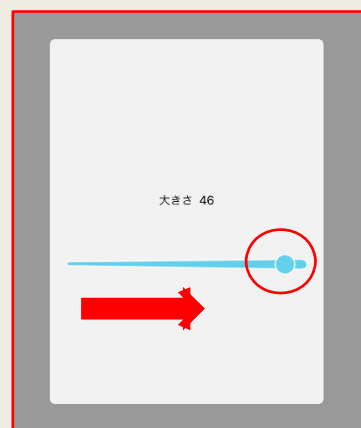
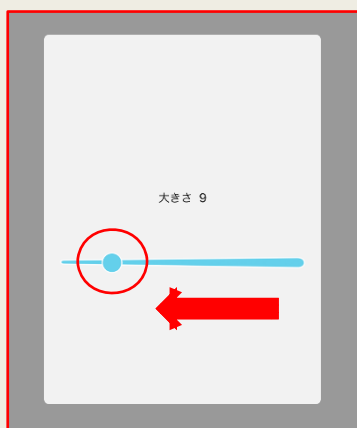
①線を描くため[鉛筆]ボタンをタップします。



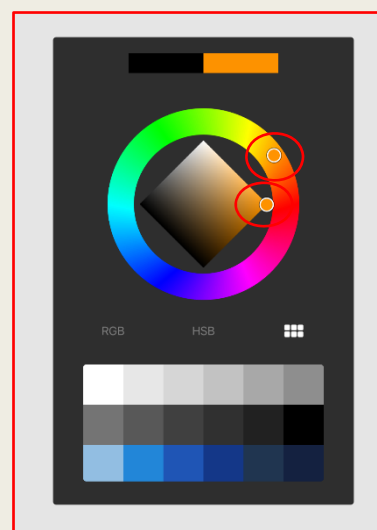
②好みの太さにドラックして調整します。

○部分を基点に
画面左にドラックすると
筆は小さくなり画面右に
ドラックすると筆は
大きくなります。

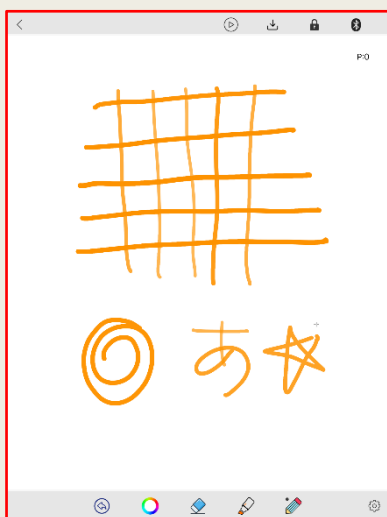
大きさを決めたら
画面のグレー部分を
タップします。



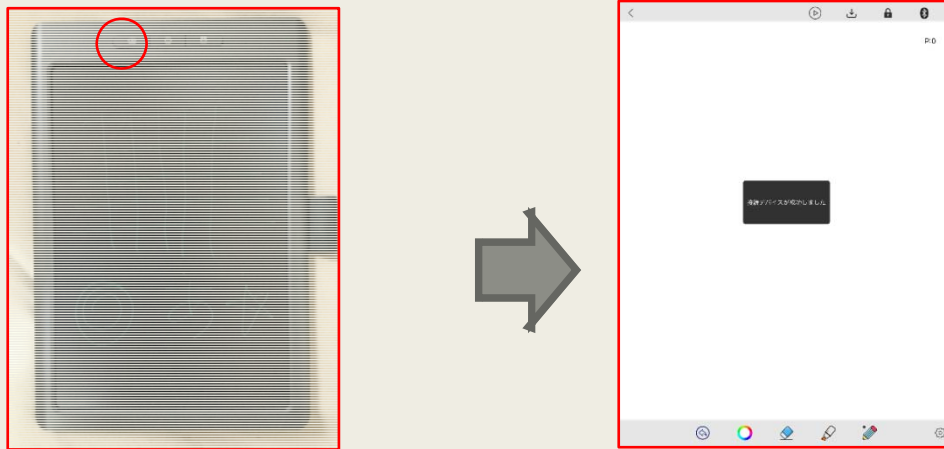
③カラーパレットをタップし、
好みの色をタップ、ドラックしましょう。



④実際にペンを使い、
線、曲線、文字を描いてみましょう。



⑤最後に、現在使用しているキャンバスを削除し、新しいキャンバスを開く場合は、DigiNote Proの「消去」ボタンを2回押します。画面表示上に「キャンバスをクリアしました」の表示後に白紙の画面に切り替わります。

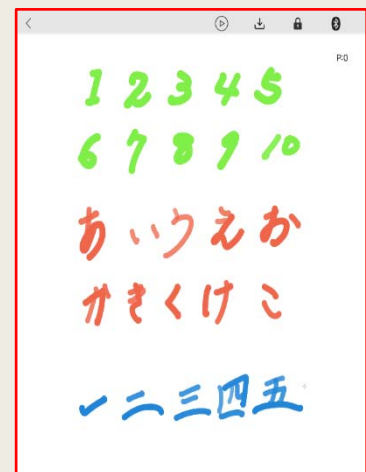


次の数字・ひらがな・漢字を、それぞれ色を変えて筆圧等を確認して描いてみましょう。

[やりなおし]ボタン

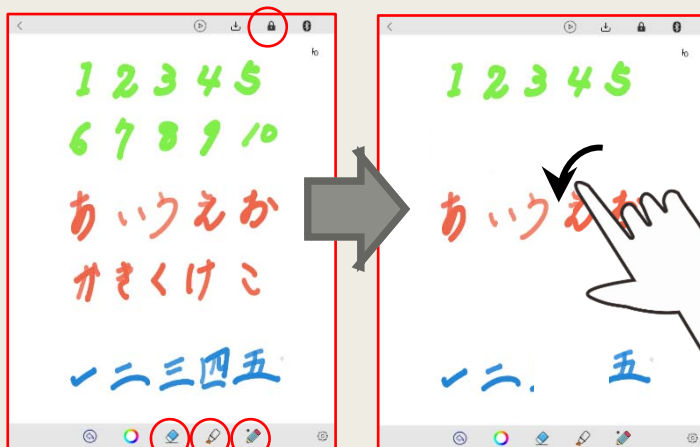
もし、間違っって線を描いてしまった場合は、キャンバス画面左下🔄「やりなおし」ボタンを1回タップする事で1つ前の状態まで戻ることができます。

また、🔄 [やりなおし]ボタンで戻せる回数は無制限で戻る事ができます。



[消しゴム]ボタン

描いた文字やイラストの一部分を消してみましよう。DigiNote Proなら何度でも描き直しが出来ます。

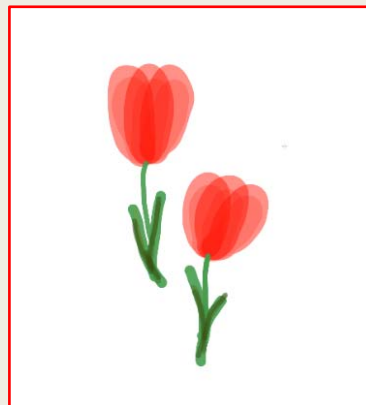


※消しゴムのサイズは選択したペン又は鉛筆の太さによります。消す箇所に合わせてサイズ調整しましょう。

- ① 🔒 ロックボタンをタップして解除します。
- ② 🧼 [消しゴム]ボタンと 🖋️ [ペン]ボタン又は 🖍️ [鉛筆]ボタンをタップします。図は[ペン]で描いた内容を消してます。
- ③ 画面に対して消したい部分を指でなぞって消します。

色塗りをしてみましょう

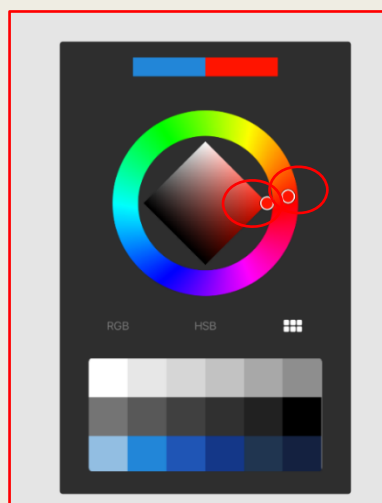
- 「カラーパレット」の使い方
今回は、チューリップのメインとなる「赤・ピンク」の中間色をスライダーをドラック調整し設定します。



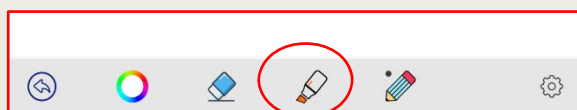
- ① 「カラーパレット」をタップし、好みの色をタップ、ドラックしましょう。



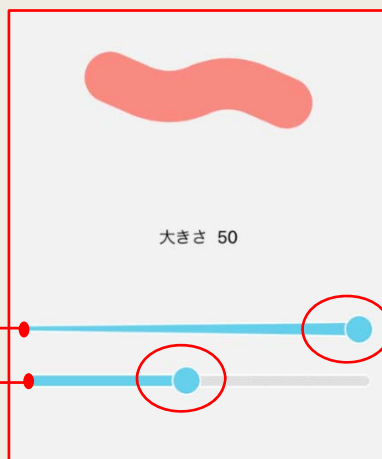
- ② チューリップのメイン色となる「赤系」の色をタップしましょう。



- ③ 「ペン」の大きさを選択します。花びらを塗るのに適したサイズを選択します。

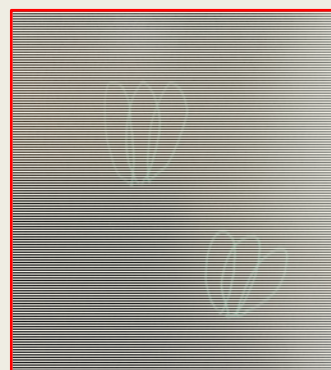
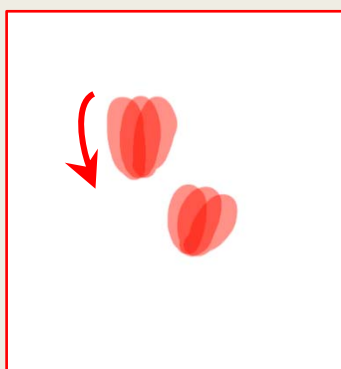


- ④ ペンの大きさは50とし不透明度を50%とし、○部分をスライドして調整しましょう。

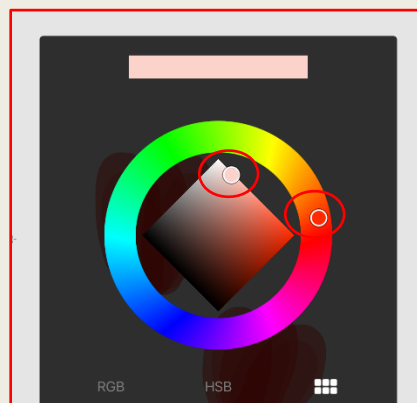


- ⑤ 花びらを描きましょう。涙型の形のようなイメージで描いてみましょう。

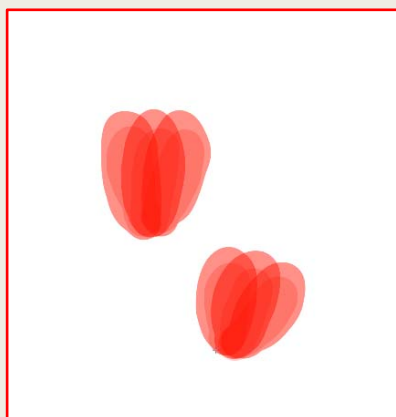
※花びらは上から下に向かって描きましょう。



⑥「薄いピンク系」色を追加して塗りましょう。



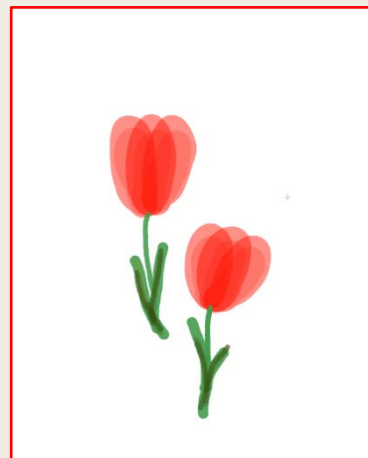
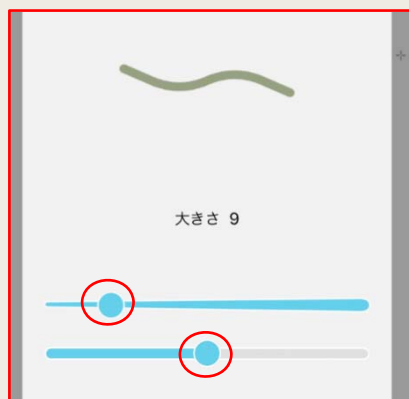
⑦先程の花びらが重なっている様子を塗るように内側に涙型の形状を描いてみましょう。



⑧「茎」と「葉っぱ」を描くため茎の「薄緑」色を「カラーパレット」から選択して塗りましょう。



⑨続けて「茎」「葉っぱ」の細さや色合いを調整しイメージして描いてみましょう。



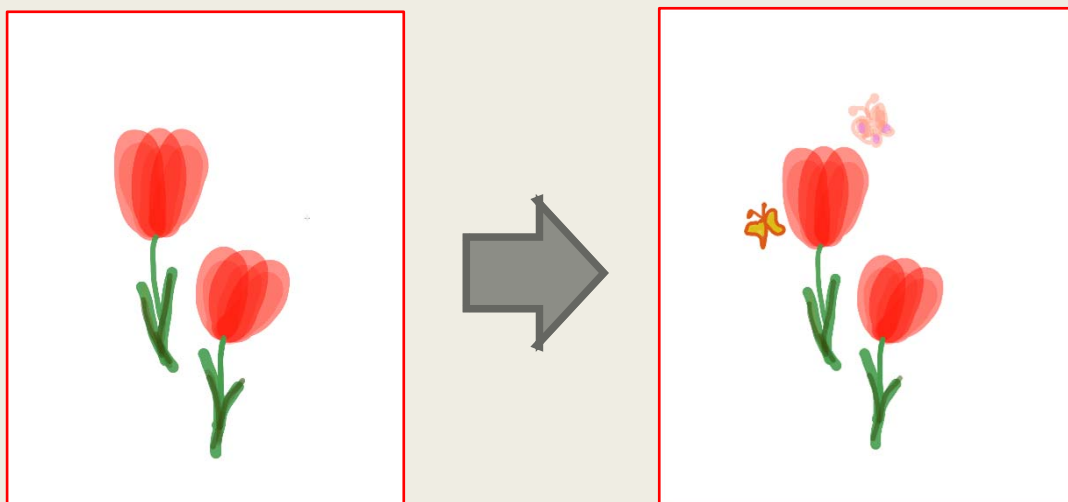
※「茎」は、1本描いた後に左右に細い「葉っぱ」を描き足していきます。「葉っぱ」を1本描いた後に1段階濃い色合いの緑色系に調整してから数枚描き足して重ねると雰囲気が出ます。

保存しましょう

■ 保存

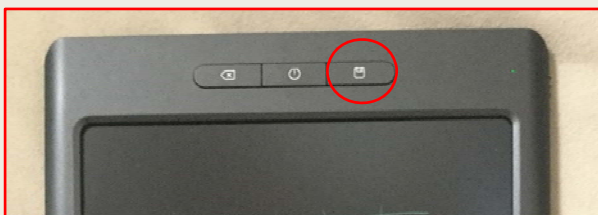
「eDraw」では、保存しないで終了しても、次に起動した時に、予めBluetooth接続が継続していれば絵の続きを描く事ができます。しかし、何らかのトラブルで絵が消えてしまわないように、絵を保存しておきましょう。

ただし、保存を行った場合は、pngファイル扱いとなりiPhone、iPad、スマートフォン等の「写真」「フォト」アプリに保存されます。保存を行う場合は、絵が完成してから保存するようにしましょう。

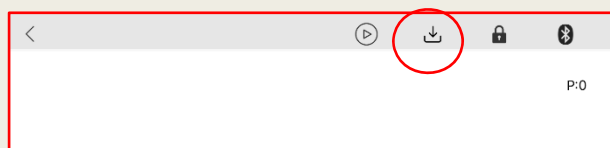


※ DigiNote Pro側で保存する場合、画面右上の「保存」ボタンを押すと機器媒体のフォト・写真アプリ等にpngファイルとして保存されます。

※Bluetooth接続が継続している場合であれば描き足しすることが可能です。

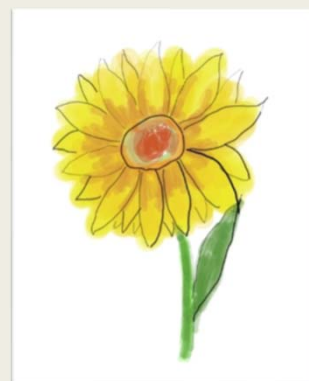
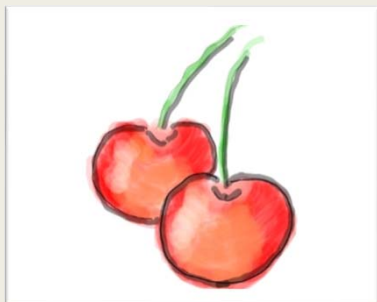


※ 「eDraw」で保存する場合、画面右上の「保存」ボタンをタップしましょう。「今、保存する」が表示され機器媒体のフォト・写真アプリ等にpngファイルとして保存されます。

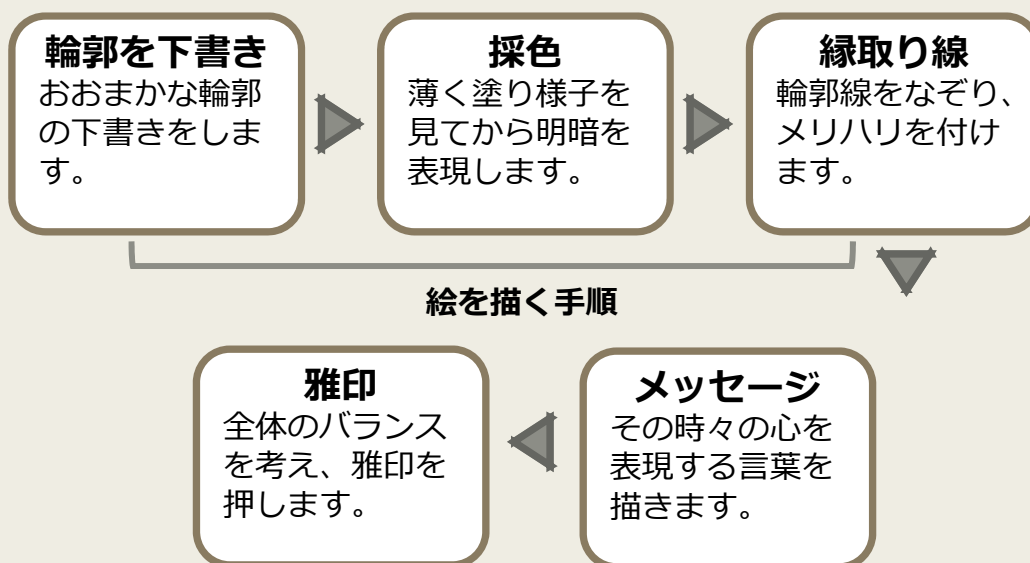


4.絵を描く基本と手順

- 絵てがみで使用する画像を描画してみましょう
「絵てがみ」とは、その時々のお気持ちや挨拶などを絵と言葉でつづる手紙です。描き方に決まりはなく、少々形がゆがんでも字が曲がっていても、味わいのひとつとなります。
絵と言葉がアクセントになり、やさしさ、思いやりのような表現をしてくれるものです。



- 絵てがみの基本的な描き方
絵てがみの描き方はそれぞれ自由にルールはありません。しかし、初めて描く場合には、どこから手をつけていいのか戸惑うことがあります。基本的には以下のような手順で描きます。



- 絵を描く手順
実際にDigiNote Proを使って、基本的な絵てがみを手順にそって描いていきましょう。今回は、果物の「柿」をイメージして描いていきます。

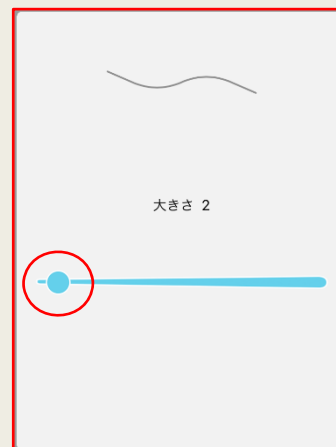
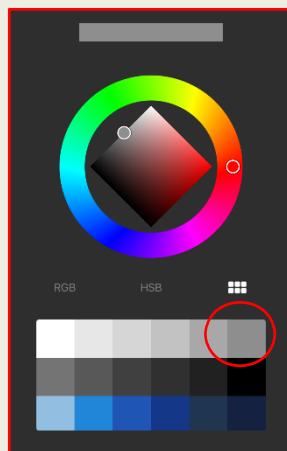
【完成例】



輪郭を下書き、彩色、縁取りしましょう

- はじめに「鉛筆」でおおまかな輪郭を描いていきます。

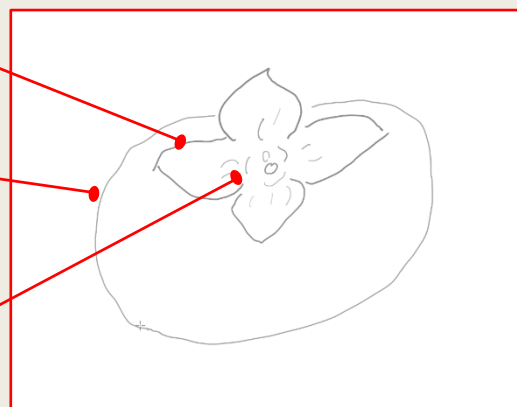
①「鉛筆」を選択し、今回は、「カラーパレット」から「グレー系」を選択しましょう。



②はじめに、柿のヘタの部分から描きはじめます。

③ゆっくりと、実の輪郭を描いていきます。

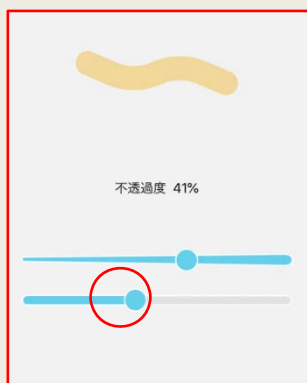
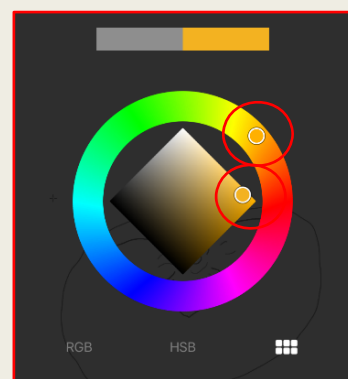
④バランス良く、ヘタに筋を入れていきます。



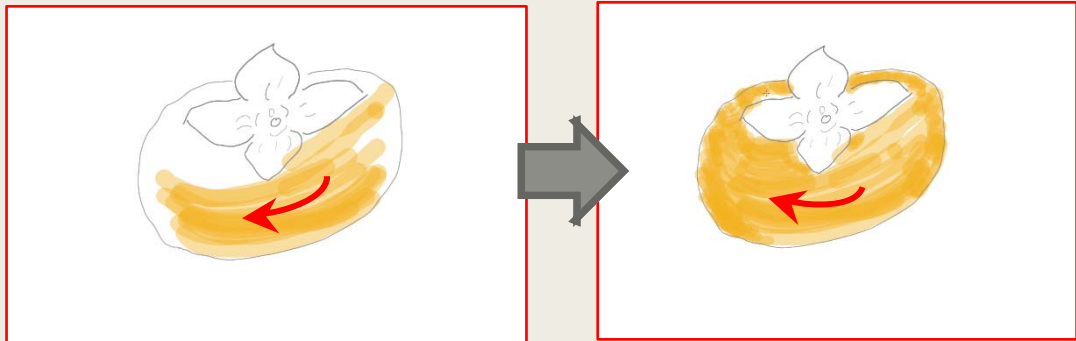
- 「鉛筆」で下書きした「柿」に「ペン」で彩色していきます。

①はじめに、「カラーパレット」で明るい部分と、暗い部分の中間色を選択するようにしましょう。

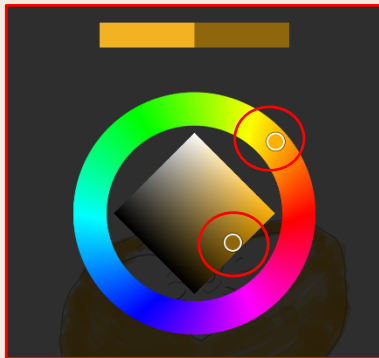
②今回はより水彩風に表現する為に、筆の大きさや不透明度等は、塗る箇所にあわせ、お好みで選択してください。



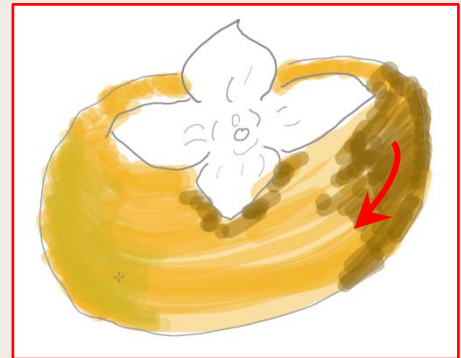
③今回は「ペン」で、柿の丸みを表現する為に、円を描くように塗ります。できるだけ、縦方向には塗らないようにしましょう。



④先ほど選択した中間色を元に更に、暗い部分の色を選択します。



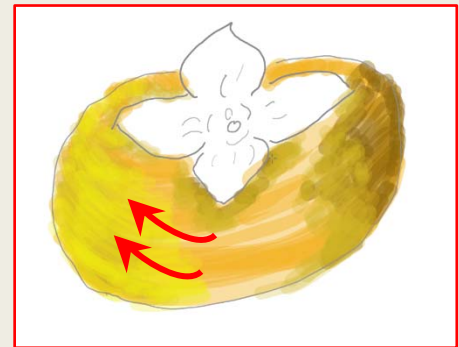
⑤暗い部分も同様に、円を描くように色を重ねて塗ります。



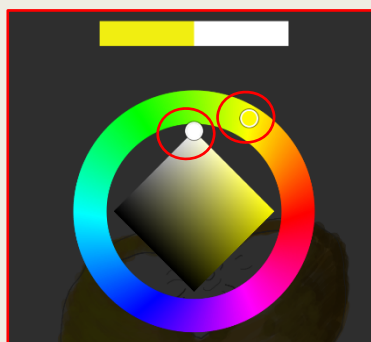
⑥中間色を元に、明るい色を選択し、不透明度を調整します。



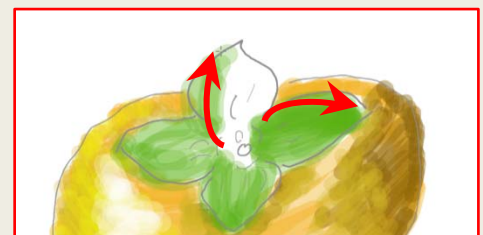
⑦明るい箇所も同様に、円を描くように色を重ねて塗ります。



⑧次にヘタの部分塗ります。ヘタの色を選択します。



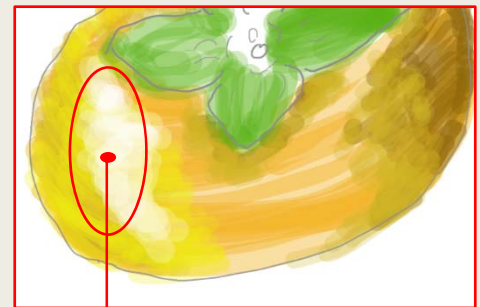
⑨ヘタを塗る時は、できるだけ筋にあわせ内側から外側へ塗ります。



⑩ヘタの内側の部分は、実で選択した色と、ヘタで選択した色を合わせたような色を選択し、円を描くように塗りましょう。



⑪最後に「白」で光を入れ彩色を完成しましょう。



白で光を入れます

■ 縁取り線

下書きの「鉛筆」の上から線をなぞり、縁をはっきりさせ絵を完成させましょう。

今回は「柿」の縁取り線を「ペン」でなぞり、絵を完成させます。

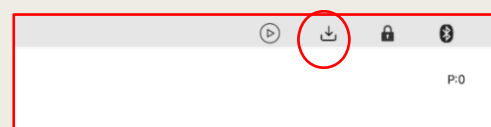
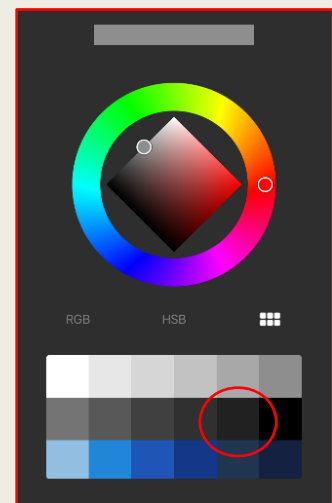
①縁取りの線の色を選択します。今回は「黒」を選択します。又、ペンの太さは、絵の大きさや塗る箇所にあわせ、不透明度等は40%前後のお好みで選択してください。

②はじめに、ヘタの部分をなぞります。筋の部分は内側から外側に向けてなぞりましょう。



③次に、実の部分をなぞります。「ペン」のサイズを太めに設定する事で「柿」の存在が際立ちます。

④これで「柿」の絵が完成しました。最後に「保存」ボタンをタップしましょう。

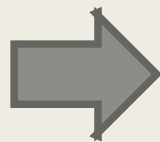
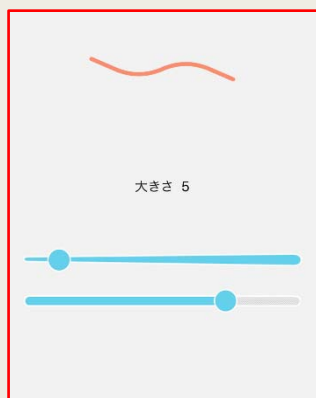


メッセージを入れましょう

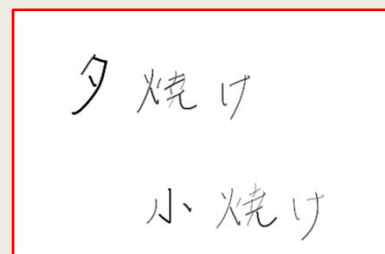
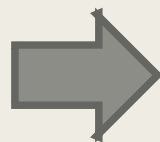
通常、「絵てがみ」に入れる文字は、習字や書道とは違い、綺麗な字を書く必要はありません。文字を書く際の「止め」や「はね」は一度忘れてください。

「絵てがみ」に書くメッセージには、「日頃感じていることや」「俳句・短歌・詩」等があります。日頃からスケッチとして「DigiNote Pro」や「eDraw」に書き残しておきましょう。

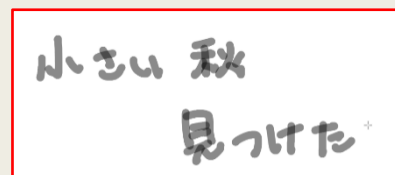
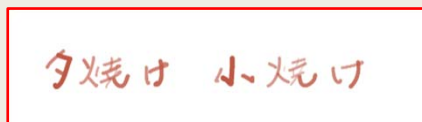
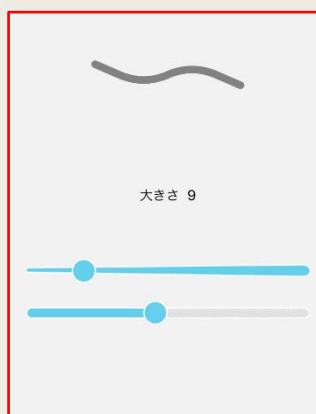
ペンの大きさや筆圧や文字色のバランスを書きながら文字を書いてみましょう。



任意の色を決めてペンの大きさを変えた筆記体の英文を書いたイメージ



鉛筆のようにペンのサイズを小さくしたイメージ



ペンの大きさと不透明度を調整したイメージ

雅印を入れましょう

最後にバランスの良いところに、作者のサインとして、「雅印(がいん)」を入れてみましょう。今回は文字の部分をもたせたような「白文(はくぶん)」の印を作成してみましょう。



定番タイプ

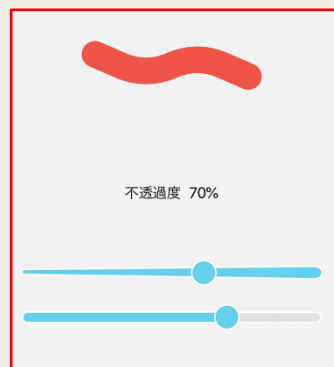


影があるタイプ

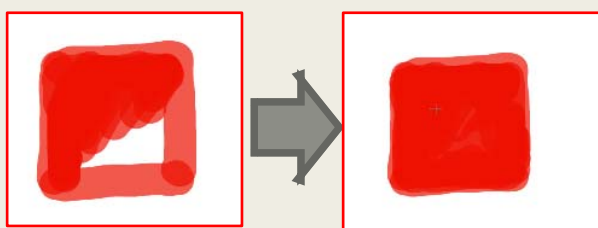
①「雅印」を作成するには「カラーパレット」から「朱色」を選択します。



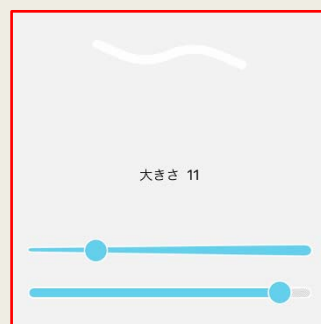
②「ペン」の大きさと不透明度を適宜調整します。



③バランスの良い場所で、ドラックしながら四角形を描きます。



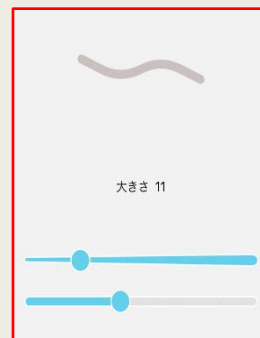
④中に描く文字を「カラーパレット」から「白」を選択し、「ペン」の大きさを適宜調整します。



⑤朱色で描いた四角形の上で、文字を描きます。



※雅印に影を付ける場合は色を一段階暗い朱色を選択し右縁に塗ります。

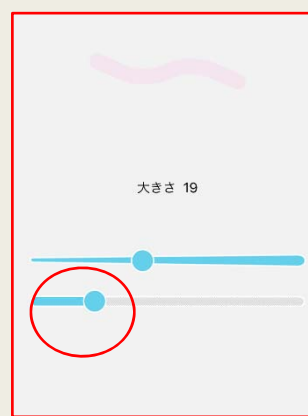
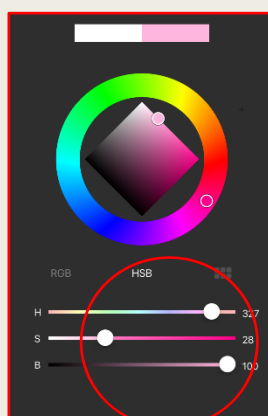
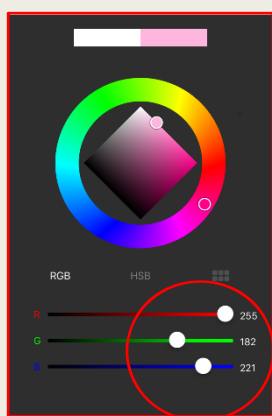


5.色遣い・花の絵を描きましょう

■ 「自分の色」の作成

オリジナリティのある「絵てがみ」等を描くコツは一色だけで色を塗らないことです。「eDraw」で用意されているカラーパレットには沢山の色が用意されていますが、二色から三色の色を重ね使う事で深みのある「自分の色」を出す事が出来ます。

「eDraw」では「RGB」「HSB」とカラーパレットに用意されているので色を明るく、暗く調整したり又、「ペン」の不透明度を調整し薄くしたり、濃くして色を作成することが出来ます。



■ 花の絵を描く

「コスモス」の見本を参考にし、自分の好きな配置で絵を描いていきましょう。

※植物を描くポイント

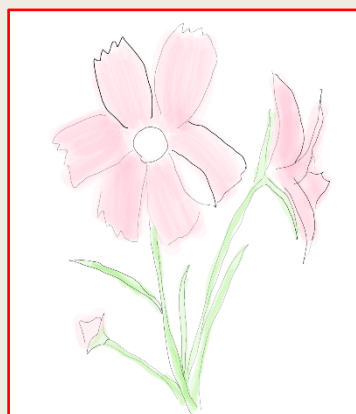
「花卉・葉・茎」は一色で塗るのではなく、濃さを変えた同じ色を重ね塗りする事で、より立体感のあるものになります。



①はじめに「鉛筆」で全体の構図を描きます。



②構図にそって、薄く全体的に色を塗ります。



※色を塗るときは、花卉や葉の筋にあわせ色を塗っていきましょう。

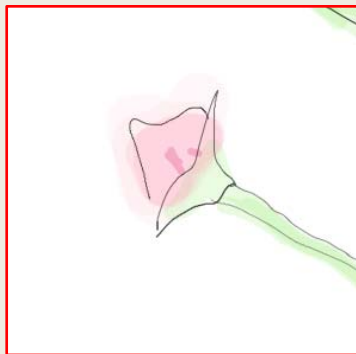
③花弁に重ね塗りをします。
内側を薄く、外側を濃く塗って
いきます。



④花弁に筋をいれます。
花弁の筋は、「黒」ではなく
「濃い桃色」で描きます。



⑤つぼみも花弁と同様に、内側
を薄く、外側を濃く塗り、「濃
い桃色」で筋を描いていきます。



⑥茎に濃い色を塗ります。
全て塗りつぶすのではなく、光を
意識して影になる部分を塗ります。



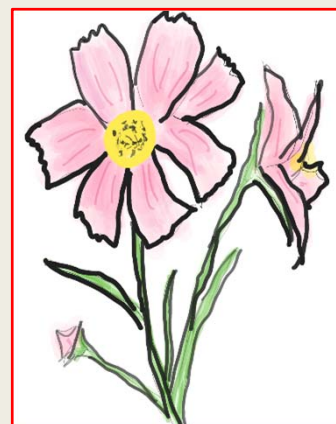
⑦縁取り線を描きます。「鉛
筆」の上に、絵の具で描きま
す。花の中心を描きます。



⑧中心の輪郭に合わせ、点々をつ
けていきます。輪郭がはっきりと
した部分ではないので、今回は縁
取りをしないまま描きます。



⑨「ペン」を使い不要な鉛筆の線
等を消す時はその下の同系色を選
択して上塗りしましょう。



最後にメッセージや自分の雅印等
を入れると雰囲気等が変わります。

6.彩字を描いてみましょう

■ 採字とは

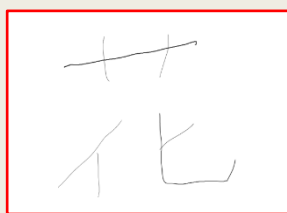
「彩字」とは、「字」そのものに飾りつけをしたものです。例えば、「字」のもつ意味を表現したものや、「字」に色をつけデザインしたものなど様々あります。



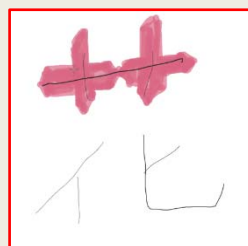
彩字を描くポイント
彩字を書く「書き順」や「バランス」などは考えずに、絵を描くつもりで描いていきます。

■ 「花」という漢字を、花らしく彩字で描いてみましょう。

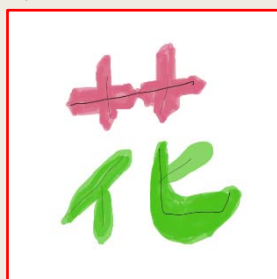
①はじめに「鉛筆」で下書きをします。今回は「花」と描きましょう。



②下書きにそって、絵の具で草冠の部分を「花」に見立てて描いてみましょう。



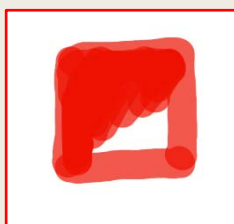
③「化」の部分は、先ほどは花に見立てて描いたものにあわせて「茎」や「葉」に見立てて描きます。



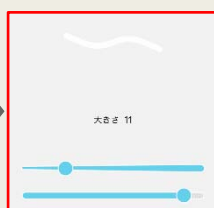
④最後に、不要になった「鉛筆」を同系色の色で上塗りすることで消していき仕上げます。



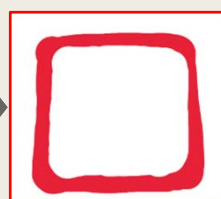
■ 「朱文」の雅印の見本



①朱色で四角形を描きます



②「ペン」で白色を選択、不透明度なしに設定



③朱色の四角形の内側に白い四角形を描きます



④「ペン」で朱色の文字を描きます

7.ご挨拶(暑中お見舞い・年賀状)

- 寒色を使用した「涼しい」印象を与える「暑中見舞い」をイメージして作成してみましょう。

金魚の絵と、「涼」の彩字を組合せした「暑中見舞い」を作成していきましょう。



季節をイメージするもの

- 【春】桜・節分・入学式・ランドセル
- 【夏】風鈴・スイカ・浴衣・金魚
- 【秋】コスモス・柿・きのこ・秋刀魚
- 【冬】ポインセチア・雪だるま・みかん

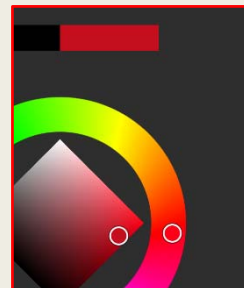
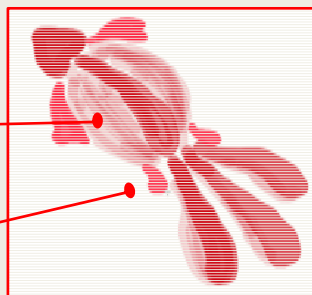
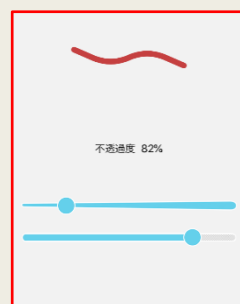
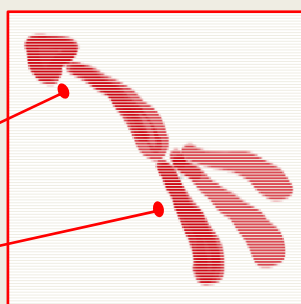
①金魚の絵を描くにあたって「ペン」にて不透明度を調整し直接描き込んでいきます。

②顔、背ビレを描きます。

③尾ヒレは、真ん中の細い部分から描きます。水の流れを意識して滑らかな曲線で描きます。

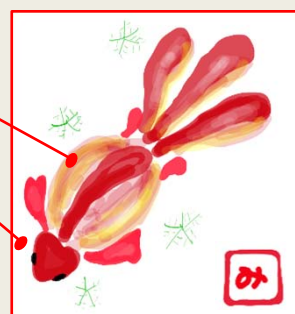
④不透明度を更に調整し 薄くしたところで、顔、背ビレに合わせて胴体や尾ヒレを描きます。

⑤はじめに塗り始めた色に戻して、胸ビレを描きます。



⑥「薄い黄色」「薄い白色」でヒレの先や、背中を「重ね塗り」します。

⑦「黒」で小さく目を入れていきます。水藻や自分の雅印を入れる等アクセントをつけてみましょう。



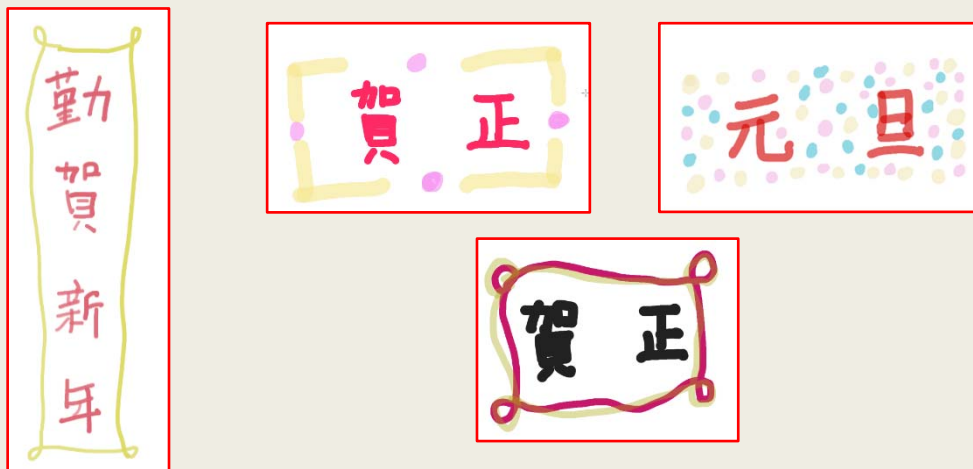
①「彩字」で「涼」という字を描きます。色は涼しい印象のある「寒色」を使用しましょう。

②「涼」に「ぼかし」を入れるので「ペン」の不透明度を調整します。

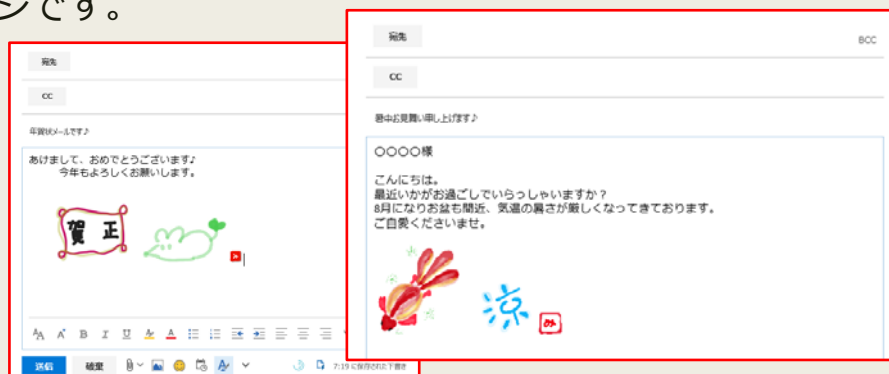
③「涼」の文字の上を塗っていきます。

文字のバランス・賀詞を描こう

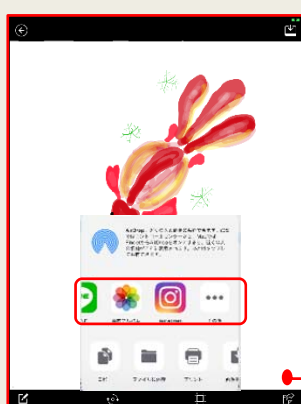
- 「絵てがみ」では、書道や習字のように書く必要はありませんが、文字のバランス良く書くことで、全体的に落ち着いた「絵てがみ」のような作風にする事が出来ます。



- 出来上がった作画や賀詞、彩字を使ってメールに添付してみましょう。下記はoutlook電子メールソフトにて利用した場合のイメージです。




- 最近では、LineやSNSで季節のご挨拶をされることもあります。いつものスタンプを送るより世界に1つしかないオリジナルスタンプの様に作って送るのも素敵です。



※再編集後に投稿する際にはこちらをタップ

※イラスト作成後に直接投稿する際にはこちらをタップ



「eDraw」には、イラスト作成後又は再編集したイラストを直接SNSに投稿することが可能です。「カメラロール」から作成したイラストを取込み、再編集後に右上の  ボタンをタップし下段のSNSを選択してタップすると簡単に投稿できます。

遠近法・風景を描きましょう

- 遠近法とは、平面の紙に奥行きを表現する手法です。遠近法には色々な表現方法があり、状況に合わせて上手く組み合わせることで、遠近感ある「絵てがみ」を作成することが出来ます。
- 今回は遠近法をつかった「風景」の絵てがみとして「高層ビルの夕焼け」の「絵てがみ」を作成していきます。

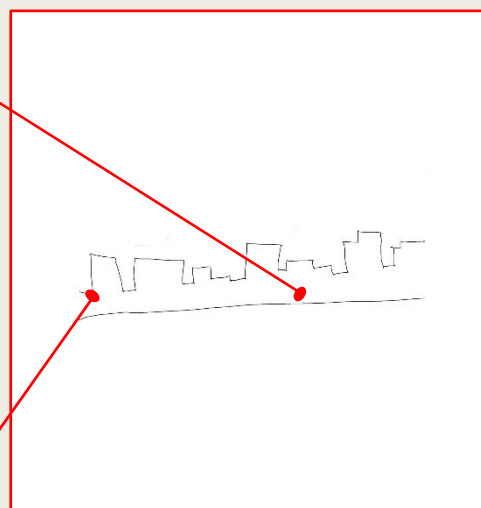
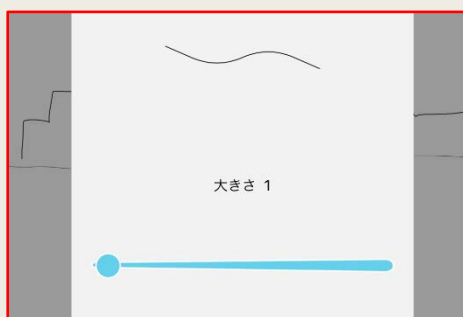


風景を描く基本

風景を描く場合は、はじめに基本となる線を描きます。

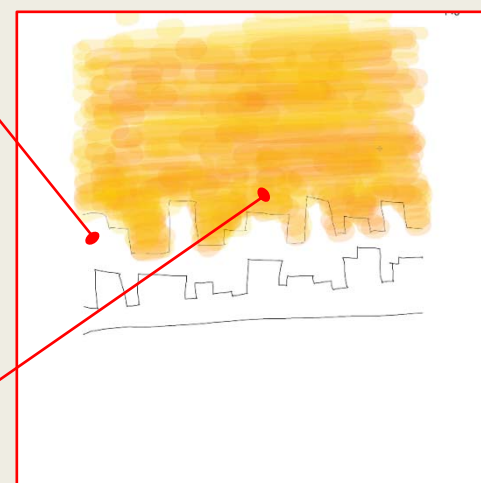
例えば、地平線や水平線のように、空と地の境目を描くことによって、全体のバランスがとりやすくなります。

①はじめに「鉛筆」で、はがきの中央より少し上あたりに水平線を描きます。



②水平線に基準に、高層ビルの手前から描いていきます。

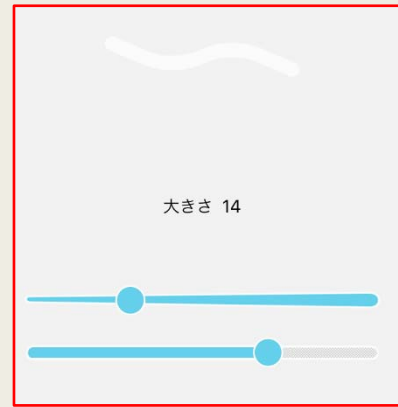
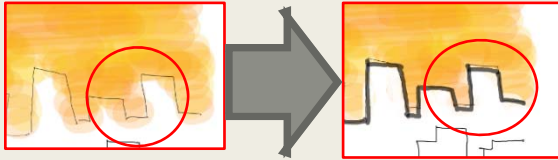
③次に、奥の高層ビルを描いていきます。
※この時に隣接するビルの線が重なってもかまいません。



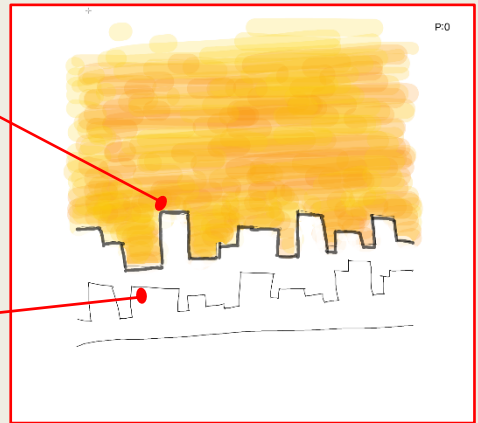
④「ペン」で背景の夕日を描いていきます。朱色や黄色で、「横方向」に塗ります。

⑤高層ビルの中へはみ出した絵具を消していきます。

「ペン」の色を白色に変えて不透明度をなしにして、「ペン」の大きさを適宜変えて塗りましょう。

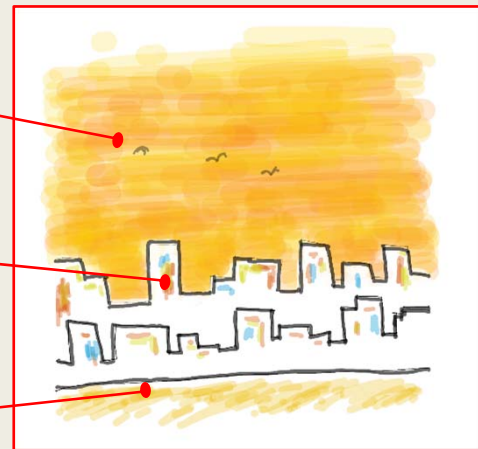


⑥「ペン」で縁取り線を描きます。「鉛筆」の上に絵の具が塗れる状態にして行います。



⑦不要になった高層ビルや水平線の「鉛筆」線を⑤と同様に「ペン」の色を白色、大きさを適宜変え、上塗りします。

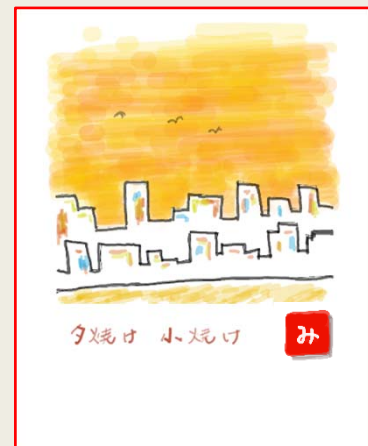
⑧「ペン」の色を黒に設定し、ペンの大きさを適宜小さく調整しカラスを数羽描きます。



⑨「ビルの窓に反射する夕日」や「ネオン」などを表現します。

⑩海への映りは、波を表現するように、「ペン」で短く横方向へ塗ります。

⑪最後に「夕焼け こやけ」等メッセージを入れ、自分の雅印を入れると雰囲気や印象も変わっていきます。



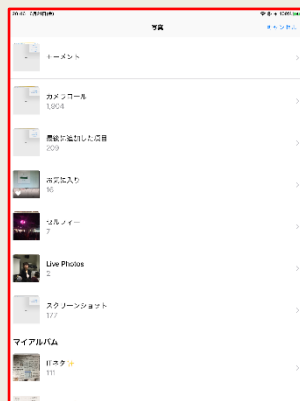
「DigiNote Pro」 「eDraw」 のキャンパス・特性と活用

- 「DigiNote Pro」 「eDraw」 にはまだ便利な機能があります。下記の操作を確認してみましょう。

「eDraw」 には、カメラで撮影したりダウンロードした写真等をトレースした状態で「カラーパレット」から色選択をして塗ることが出来る機能があります。



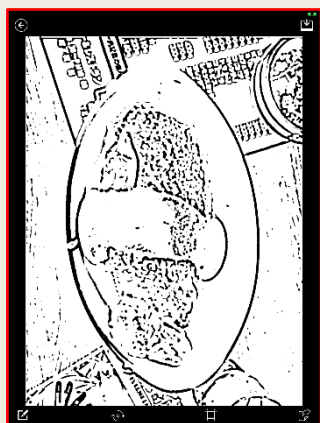
①右上の「+」ボタンから「アルバム」をタップします。



②カメラロール等から使用したい写真をタップして選択します。



③「写真の形成が不明...」と表示が出てから青く反転します。右上の✓ボタンをタップします。



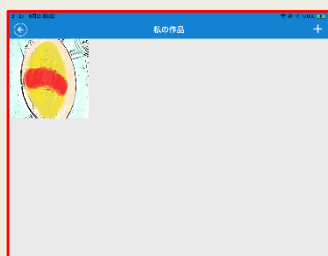
④カラーから反転して白黒になり絵がトレースされます。



⑤下段にあるカラーパレット等を利用して好みの色を塗りましょう。



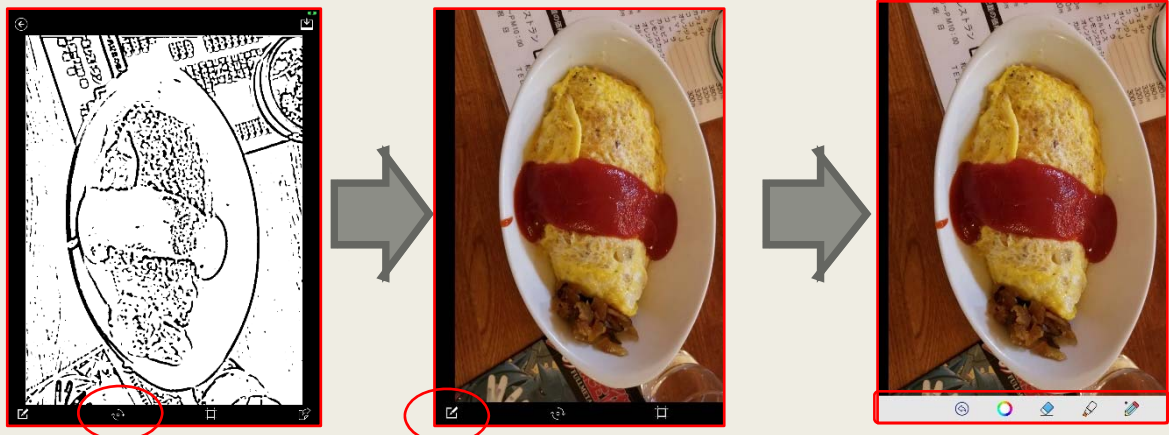
⑥右上にある「保存」ボタンをタップしたら完成です。




⑦「私の作品」の中に保存されるの同時に「写真」「フォト」の中にも保存されます。



※写真を取り込んだ際に四隅の○ボタンを移動してトリミングも可能です。



※写真を取り込んだ際にカラーから反転して白黒になった際に、下段にある  ボタンをタップすることで再度カラーに戻すことができます。その後下段にある「カラーパレット」から色を選択し、追加描画することができます。

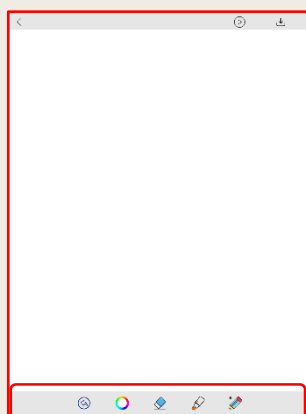


※最後に「保存」ボタンを押して、SNSにアップすれば おしゃれな写真の投稿アップになります♪

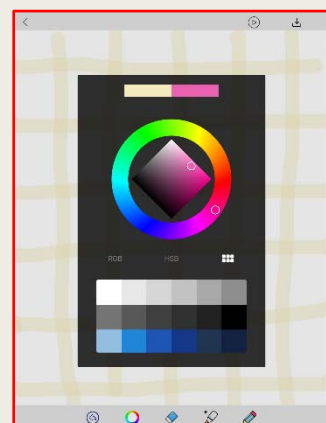
- 「eDraw」には、「新キャンバス」にてオリジナルのイラストをiPhoneやiPadやスマートフォンの画面で直接描いたものを保存することができます。出来上がった描画でCDラベルやグッズ、SNSに投稿する際のフレーム作りとして利用してみましょう。



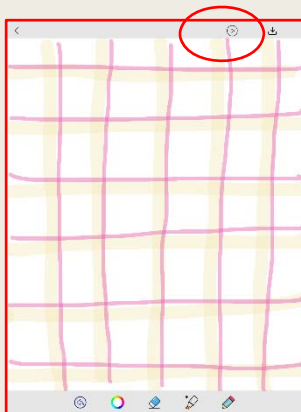
①右上の「+」ボタンから「新キャンバス」をタップします。



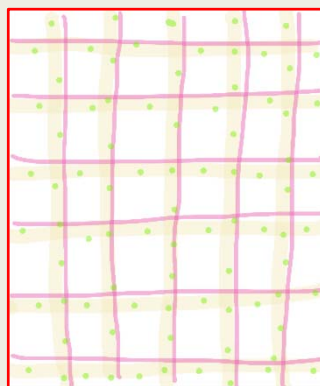
②無地の画面が表示されるので下段から使用する色等を選択します。



③「カラーパレット」や「ペン」の大きさを調整しましょう。



④色合い等を変えデザインを整えます。
又、右上の▶ ボタンで
描画順も確認できます。



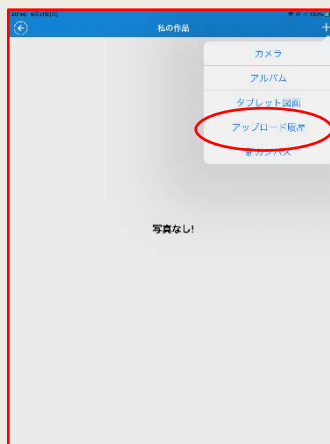
⑤「保存」ボタンを押すと「フォト」「写真」アプリに保存され、私の作品の中にも保存されます。



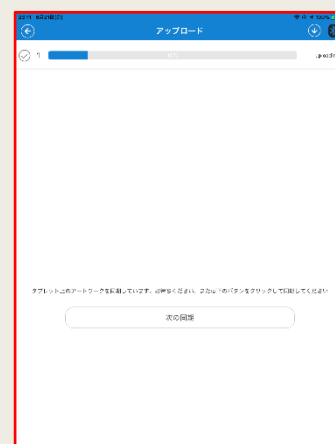
- 「eDraw」には、「アップロード履歴」ボタンがあり「DigiNote Pro」側で描いて保存した内容をiPhone・iPad・スマートフォン側にデータを移動保存することができます。



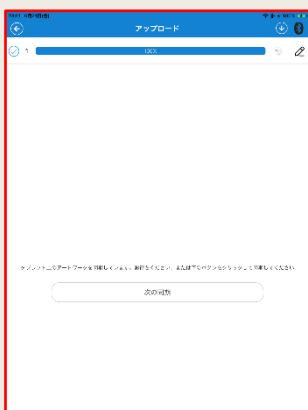
①タブレット側で描画していき右上の「保存」ボタンをタップします。



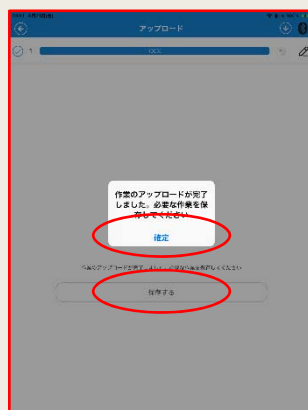
②iPhone・iPad・スマートフォン側で「アップロード履歴」をタップします。



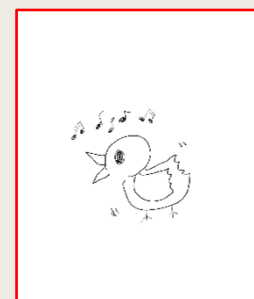
③画面が替り、タブレット側で描画したデータが移行されます。



④進捗バーの表示が100%になります。

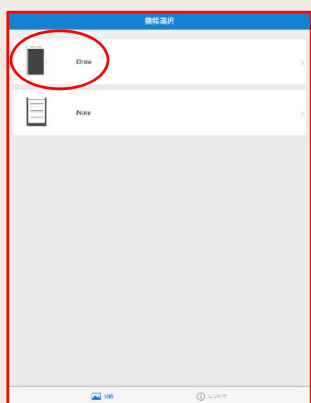


⑤「作業のアップロードが完了しました」が表示されたら「確定」をタップし「保存」をタップします。「フォト」「写真」アプリに保存されます。

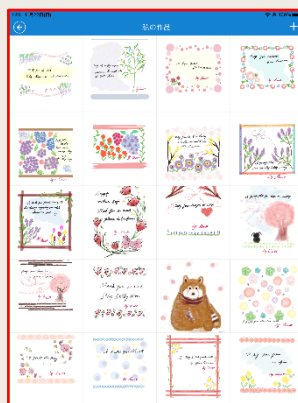


※保存された描画データに色付けすることも出来ます。

- 「私の作品」に保存した描画内容は、後からでもデータを呼び出して再度編集することが出来ます。DigiNote Proを予め同期接続してから描き直すことが出来ます。



①「iDraw」をタップします。



②「私の作品」に保存してある編集したい描画データをタップします。



③画面左下にある編集方式を選択するボタンをタップします。



③スケッチブック編集をタップを押します。



④DigiNote Proと同期接続の確認をします。



⑤描画が出来る画面に変わるのでDigiNote Proの作業画面から専用ペンで編集が出来ます。

※タブレット編集をタップするとスマートフォン等の画面に対して指で描画編集する操作が出来ます。

※保存ボタンを押すと再編集する前のデータとは別に新たにデータが保存されます。

この度は、DigiNote Proのご利用と共に本教材をお手に取っていただき大変ありがとうございます。本教材は、DigiNote Proにてより楽しく便利に活用していただきたく構成編集しております。

最後になりましたが、本教材をきっかけに、今後とも皆さまが思わず笑顔になるような、楽しく温もりのある活用とDigiNote Proの更なる普及の一助となることを願っております。

by timaa